



事例 1

高校2年生のA子は、成績も優秀で、進学校に進学し、中学校からやっていたテニス部に入り順調な学校生活を送っていたが、先輩とのいざこざから、退部してしまった。

一種の挫折感から、勉強もはかどらなくなり、ストレス解消と言いつつ、夜遊びを繰り返し、いつしか中学時代の友人とクラブに出入りするようになり、夜通し踊り明かしたり、時には酒を飲んだりするようになった。

ある日、クラブで知り合った仲間から、覚醒剤を持ち出され「これをやれば、すごい気持ちいいし、痩せられるよ」と言われ、周りのノリと覚醒剤を進めてきた仲間が異常にみえなかったことから、覚醒剤を注射してもらい、たちまち虜になってしまった。そして、学校にも通わなくなり、やがて仲間と共に逮捕され、学校を退学することを余儀なくされた。

事例 2

高校1年生のB男は、学校に対して熱中できるものもなく、漠然とした大人へのあこがれから友人に誘われるがままに白々夜の街に繰り出すという生活を送っていた。

すでに、喫煙経験があったB男は、友人から「依存なんてしないし、タバコより体に悪くないよ」という友人の一言と、法律で禁止されていることはわかっているが、強い好奇心と、いつでも止められるという甘い考えから、大麻を吸うようになった。そして、大麻の多幸感が忘れられず、いつしか携帯電話を使って大麻を購入するようになった。

当然学校には行かなくなり、自宅で大麻を隠し持っていたことから逮捕された。

